



〈写真中央が筆者〉

## タイ王国シーナカリンウィロート大学 留学体験記（学部間協定留学/交換留学）

明治大学経営学部経営学科 4年

座間千裕

私は2014年8月から12月末まで、シーナカリンウィロート大学へ留学していました。タイへの留学を決意したのは、大学で日系企業の東南アジア進出について学び、ASEAN、特にタイでの生活・ビジネスに興味を持ったからです。

学業についてですが、平日午前中はタイ語の語学学校に通い、午後に大学の授業に出席するという生活スタイルでした。現地の大学では経済公共政策学部には所属していましたが、学部にとらわれず社会学部や国際学部の授業も受講していました。特に国際学部で出会った友人とは、休日にお寺参りをしたり、食堂でお互いの国の政治や経済について延々と議論したりするなど、密度の濃い時間を過ごしました。日本のことについて聞かれても、うまく答えられずにもどかしい思いをしたこともあります。そのときには語学力はもちろん、知識や、自分の意見をはっきり伝えることが大切だと感じました。

また大学の授業以外に、タイに現地法人を持つ日系企業を訪問したり、駐在員の方とお話を聞いたりもしていました。先生方や明治大学OBにご紹介していただくこともありましたが、JETROの資料で日系企業一覧を見て、直接電話でお願いすることもありました。電話をするとタイ人スタッフが来て、こちらがタイ語で話しても「何を言っているのかわからない」といわれた苦い経験も…「東京都バンコク区」などと言われるほど日系企業が集まるタイでは、語学力以上に日本的なビジネススキルが求められるようです。その一方で、現地スタッフとの仕事の考え方が違って困ること、政治・経済的リスクへの対処などの実情も教えて頂きました。

また、タイ人の友人と話す中で、日本以上に女性の社会進出が進んでいること、転職を繰り返してキャリアアップするのが普通であることを知り驚きました。グローバルに働いてみたいと漠然と考えていた私にとって、今回の経験は海外での働き方をイメージするきっかけになりました。

今後、タイをはじめとする東南アジア諸国がどう変化していくのか、とても楽しみです。そして私自身も、今度は「仕事で」タイに戻って来られるように、日々精進していきたいと思います。